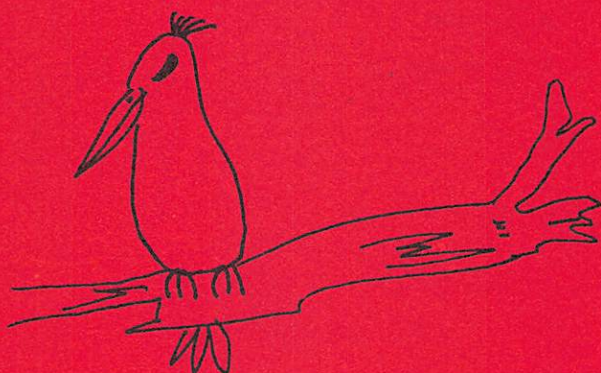


香葉



1974

NO. 5



目 次

学長就任にあたって	下田 哲	1
フリーセックスの一面	浅田 寛厚	2
—ヨーロッパの旅で思ったこと—		
林先生学長ご退任と下田先生学長ご就任		3
「香報室」		4
「コーヨースポットライト」	長谷川 絢子	8
—インドの農村で—		
「展 望」		10
「集いの窓」		13
覚え書(五)—女専・短大小史—	上 市 二 郎	14
四十九年度総会報告		16
「おたより」		18
母校ニュース		19
香葉会事務局担当者紹介		21
編 集 後 記		22
表紙	関 頼 武 氏	
	カ ッ ト	成 川 勝 子

学長就任にあたって



学 長

下 田 哲

この度、林淳三前学長の任期満了による辞任によって、私が学長の責を負うことになりました。私は昭和三十一年より六浦構内にあります関東学院教会の牧師として働いてきましたので、当時の短大の一部の学生であられた方々（特にルツ寮の方々）とは接する機会がありました。非常勤講師を経て昭和三十八年専任となり、短大の宗教主任としてもっぱら宗教々育の責任を負って参りました。短大も年々大きくなり、時代の変化もあり、キリスト教主義学校として如何にあるべきかということは、仲々難しい問題となつて来ております。宗教主任として学長を助け、神と教会に対して学校の責任を負う者として、そのために努力し祈りに専心当るものが宗教主任であり、その職に召された者として働いて来しました。然し、万止むなく学長の職に就くことになりました。私は、やはりこれも神の召しと考えます。

元学長相川先生、前学長林先生につづく者として、自分の

足りなさを痛感致します。まさに「土の器」であります。然し、真に幸いなことに、小玉・岡松両先生の補佐、全教職員の方々のご支援によって、この重責を負って行きたいと思っております。

英・国・家・幼の四科を既に有し、学生数千人を超える短大に発展してきた本学において、これから私のなすべき役割は、「内」の充実であろうと思います。旧約聖書申命記八章に、乳と蜜の流れるカナンの地に入ろうとするイスラエルの民へのモーセの戒めがあります。「あなたは食べて飽き、美しい家を立てて住み、また牛や羊がふえ、金銀が増し、持物がみな増し加わる時、おそらく心にたかぶり、あなたの神主を忘れるであろう。……あなたは心のうちに「自分の力と自分の手の働きで、わたしはこの富を得た」と言つてはならない。あなたはあなたの神、主を覚えなければならぬ。」とあります。

大いなる希望と夢を抱き、更に大きく発展して行こうとしている本学において、私はこの言葉を心に刻みこんで、歩んで行きたいと考えています。卒業生の皆様のご支援を心よりお願い致します。

フリーセックスの一面

—— ヨーロッパの旅で思ったこと ——

浅田寛厚

北欧に端を発しアメリカで拍車をかけられた性革命の波が、この数年來わが国にも激しい勢いで押し寄せてきている。そしてその性革命はあらゆる体制の規範を打破し、人間解放、特に女性解放への救世主のごとき様相を呈している。よく女子学生と話をしていると、性そのものがズバリ話題となり、フリーセックス（ここでは「婚前交渉の自由」の問題がかなりのウエイトを占めていることが、性革命の波と無縁でないことを如実に物語っている。

しかしいつも気になることは、彼女たちの考えが「好きなら婚前交渉は当然」「愛があれば決して後悔しない」という具合に、あまりにも図式的に割り切れすぎていることである。果してこんな単純なものであろうか。ちょっと落着いてこれを読んでほしい——

若い未婚の母は自分が性交渉を持った一人の若者の名前をあげればそれで十分である。彼はただちに裁判官の前に召喚されて、事実の有無が問いただされる。もし否認しなければ、子供が生後六カ月に成長するまでとりあえず生活費を支払わなければならない。そして六カ月を経て初めて両者の血液検査が行なわれ、その検査だけで父子関係の疑いがでると、子供が十六才に達するまで、彼は収入の十二パーセントを養育費として支払わなければならないことになる

（父たる嫌疑が晴れた場合には、すでに支払った全額が払い戻され、新たな父親探しが続行され、未婚の母は次々と男の名前をあげていくことになる。）

これはフリーセックスの元祖などともはやされているスエーデンの場合であるが、性教育がはやくから行なわれ、避妊の知識が徹底しているはずのスエーデンにおいてさえ、この種の歯止めがなされなければならないところに男女の愛の難しさもろさがあり、また婚前のフリーな性交渉が実は男性側のきびしい責任の上で行なわれているという事実を女性は忘れてはならない。

いまや映画、演劇、テレビ、雑誌などが、やれポルノ解禁、これが本場のフリーセックスなどと、どぎつくあおりたてているが、そのほとんどが片手落ちで、その本質を深く追求しているものは皆無に等しい。わが国はまだまだ男性天国であり、フリーセックスの後始末は、すべて女性の側に押しつけられているということを十分に覚悟しておく必要がある。（本学非常勤講師 青山学院大学教授

英文学 アメリカ演劇専攻）



パリのグランドホテル前

林先生学長ご退任と

下田先生学長ご就任

九月に入つて、香葉会宛に、左のようなご挨拶をいただきました。

謹啓 残暑の御益々ご清栄のこととお慶び申し上げます
さてこのたび八月三十一日付をもって任期満了に付学長の職を退任いたしました

在任中は公私とも格別のご指導ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。なお今後も引続き家政科長・教授として教育研究に専念いたしますので何卒よろしくご厚誼の程お願い申し上げます

後任には宗教主任の下田哲教授が就任いたしました。私同様よろしくご支援ご感情賜りますようお願い申し上げます
まずは略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます 敬具

昭和四十九年九月一日

関東学院女子短期大学

教授 林 淳 三

謹啓 残暑の候いよいよご健勝のこととお慶び申し上げます
さてこのたび林学長の任期満了に伴う改選にあたり私が推されて学長に就任いたしました

浅学微力ながら最善の努力を尽す所存でございますので、何卒前任者同様にご指導ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます

まずは略儀ながら書中をもって就任のご挨拶を申し上げます

敬具

昭和四十九年九月一日

関東学院女子短期大学

学長 下田 哲

ご数年、林先生の学長ご就任以来、短大は目をみはるような発展をさせていただきましたが、先生の経営者としてのご手腕と、責任者としてのお人柄によるものと、卒業生一同、心からの敬意と、長年のご苦労とご努力に感謝をささげております。香葉会も発足当時から、本当に先生のお世話になりました。仕事でよく学校へ出かける役員も、先生ご在室の時には、よくお寄りするのですが、お忙しい時間をわざわざさいて、雑談もしてくださって、私共役員も、先生を通して学校に更に親しみをもつことができました。会からの、わがままな要求にも、ごころよく耳を傾けてくださり、ご協力をいただきました。先生は、ご専門の研究においては、日本でも有数の学者でいらっしゃるのと何つております。今後は、ご研究に専念されその成果をますます、あげられますと共に、家政科長として教育に貢献くださいますよう、先生のご健康とご活躍を、心からお祈り申しあげ、卒業生一同にかわつて御礼の言葉にかえさせていただきます。又次期学長の下田先生は宗教主任として、学生の指導にあたつてこられ、学院の神学部ご卒業以来、学院と共に歩んで来られた方で、林先生の後継者として最適の方と存じます。総会にも必ずご出席くださり、皆様ともおなじみ深い先生です。今後何かとお世話になることと存じますどうぞよろしくお願い申しあげます。

会長 古城 房子

香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、詩、和歌、俳句、隨筆、等の発表の場として、用意いたしました。短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿を随時お送り頂きたくお願いいたします。同封の原稿用紙を御使用下さい。

故郷

前川貞子

福井へ来て、早二十二年。生まれ育った横浜に生活した年月と同じ程、此の土地に居ついてしまった私。素朴で親切な福井の人達。日本海の奇麗な、そして荒々しい海を身近に感じながら、いつの間にか年をとった私。それでも横浜はなつかしい故郷。今年の始め母校を訪れ、上市さんにお会いした時のなつかしさは又格別です。横浜に帰り、多くの関東のお友達とお会った時に、私は一番幸福を感じます。だって青春がよみがえった様な気持ちにさせてくれますもの……。そして、福井に居住する事すら一生の中の旅の様な気分です。皆さんは、生まれ育った所で生活をしていらつしやる方が多いので気がつかないと思いますが、私の様に遠く離れた者のみが味わう事の出来る故郷の懐かしさ。良しに付け悪しきに付け思い出す故郷。私にとって最愛の土地横浜。時代の流れにそって、この故郷の変化も著しいもの、それでも私にとっては生

まれ育った所。私の胸の中には今も昔とちつとも変っていない横浜。それが私の故郷です。皆様も一度横浜を見つめ直してみませんか。きつと何かに気付く事と期待しながらお別れいたします。皆様どうか私の故郷を大切にしてください。

故郷のない方は是非私の居る福井へおいでください。きつと故郷の良さが解ると思います。ご一報下されば駅迄お迎えにあがります。

(女専家二十四年卒 旧山口)

夏休み

長崎洋子

二年前、東京の生活にさよならして藤沢市に家を持ち、落ち着きましたのも東の間、昨年は主人の転勤がございました。

義母、家の問題等の事情もございまして、主人は単身赴任にて札幌に。私共は母子家庭となり、家族別居の生活にあらためてサラリーマンの悲哀を感じ、留守番役の私も責任が重いです。自家におります時は何一つ出来なかつた主人も札幌での生活に慣れ、身の廻りの

事は自分で出来るようになった等と便りをし
てまいります。

一週間の夏休みがとれ、主人も我が家に帰
つてまいりました。疲れが出てはと心配する
家族をよそに、暑い暑いといながら、久し
ぶりに家の中をこまめに動き廻ったり、庭の
手入れにと精を出しております。夜は好物の
ウイスキーを片手に娘達と雑談したり、テレ
ビに歓声をあげ、なごやかな日を過ごしてお
ります。

日頃一緒におりませんので話し合う事も沢
山ありますが、面と向いますと何から話して
良いやら——。特に娘達の要求には甘く、何
事もOKしてしまい、義母から注意されなが
らも満足に浸っている様子です。家族一絡の
夏休みもあと二日となり、主人は我が家で
生活を堪能して札幌に、私共はまた母子家庭
に戻るこの頃です。

八月二十五日

(女高家二十七年卒 旧鈴木)

総会つれづれ

鈴木利治

三春台の学窓を去ってから早いものでいつ
の間にか二十年もまたたく間に去って行きま
した。ゆくりなくも昨年、関東学院六浦校舎
を父親として訪れた時は年の流れと共に過ご
し方を顧みて感無量でした。社会人と第二部
学生時代を思い出していたある日、香葉会の

通知を頂き、去る六月三十日六浦室の木新築
校舎の総会に出席いたしました。昔の先生方
との二十年前の話題に花が咲いて、先生方の
記憶の良いのに驚きました。出席された第二
部の方は五名、その一人は第一期生の土山さ
んで、毎年かかさず出席されている由。二人
で同期生の思い出話で時のたつのがあまりに
早く、また礼拝、讃美歌に昔の夢がよみがえ
った様でしたが、当時の悪童達も多忙な会社
役員やら中堅幹部のため、出席されなかった
のが残念でなりません。この人達に来年は是非
来ていただきたいと思いました。

考えてみますと、我々社会人は忙しいとは

いうものの、同窓会等に一年に一回位は出席
する機会の多い昨今です。我等が中(晩)年卒業
生に次の総会には是非おいで願って、大いに
先生方と皆様と語りたいと思います。何より
も「昔の仲間会って話が出る」事だけでも
十分楽しいものです。クラスによってはグル
ープで会合を持っている方々もあると聞いて
おりますが、是非とも来年は皆様にお会いし
たいとこの紙上をかりて、「総員集合」と大
声を出して皆様と呼びかけたのです。お待
ちしております。

(短英二・二十八年卒)

L.L.と私

新海 浜子

英文科に勤務するようになりましてから、
早いもので十年近くになります。長い年月の
ようですが、仕事に追い回されているからで
しょうか、新しい装置に慣れるのに時がか
かるせいでしょうか、いつの間にか過ぎてし
まったように思われます。

L.L.装置も現在では、第一・第二ラボ、ヒ

ヤリング・ルーム等があります。三代目になる第一ラボは、新しくなるたびに改良され、一年前からは全て教卓でコントロールされ、ランプで学生の行動が一目瞭然の設備もあります。しかしながら楽あれば苦ありで、これらの装置に慣れるのに大変、一つボタンを押し間違えると、とんでもない事になりかねないので……。第二ラボは六年目になる代物。修理屋思いで副手泣かせ。修理の翌日から奇声を発するのもあり、こちらも負けじと奇声を録音して証拠あつめ、時にはわずかな事で調子が良くなったりします。その他にVTR、スライド、プレーヤー等に囲まれ、機械に振り回されたり、なだめたりしている毎日です。

四月に新入生と共に緊張し、夏休みでほっと一息、振り出しに戻って少し余裕ができる頃は、冬休み間近、二月からは整理と教材作り、使用とモに学生の伝言を見つけたり、テープで懐かしい先生方のお声を聞きながら、いつの間にか一年が過ぎてしまいます。

まだやり終えない仕事が沢山、そろそろ私自身もオーバーホールしなくては……。

(短英三十九年卒)

旅の思い出

川瀬小百合

最近の旅行ブームは、本当に目を見張るばかりです。私もこれまで何度か旅行をしましたが、何といっても忘れられないのは、学生時代に行った北陸地方、北海道、そして奈良京都です。これらは、それぞれに思い出深いもので、北陸地方は保護者付きだったそれまでの旅行と違って、友人同志で決め、実行に移した本当の旅らしい旅でした。また、この時は試験終了と同時に出かけたのですが、あのスッキリとした解放感を二度と味わえないのは残念です。

北海道へは二年の夏に、北海道大学観光研究会主催の、道内一周七泊八日のポスターを見て、北陸地方へ行った時と同じメンバーで参加しました。この時は、全国の学生が集まるとの事で楽しみにしていたのですが、こちらの子想とは裏腹に、私達と同じ女子短大生が九割で、残りは四年制に行っている女子大生とあって、最初はがっかりしていたのです。

が、皆かえってうちとけやすく、気楽で愉快なバス旅行となりました。この旅行は学生が主催者とあって質素なものでしたが、この様な旅こそ学生時代にしか味わえない、貴重な思い出を作るものだと思います。

卒業を間近にして、学割を使えるのもあとわずかと思っていた時、中学時代の友人から京都へ行こうとさそわれ、中学、高校で行けなかった所なのだから、と大いに歩き、かつ食べ、大変楽しい学生としての旅のしめくくりとなり、またいろいろな面で、人の親切というものを知った旅でもありました。

(短英四十六年卒)



教員生活

内田英子

教職について三年目——早いものですね。

卒業がついこの間のような気がします。考えてみると、やはり学生時代が一番楽しかったようです。今の私は、小学校一年生の担任をしており、毎日天真らんまんな子ども達と一緒に、元気に勉強し運動しています。

優等生らしいまじめな子、また私の言うことをなかなか聞いてくれないわんぱく坊主の子、目の大きい背の小さな女の子、いつも金魚の何とかのように私についてまわる子、四十二人もいると十人十色の子ども達です。でも私はこんな子どもが大好きです。

しかし楽しいことばかりではないのです。勉強をわかってもらえないようにどう教えるか反抗的な子の扱い方など、頭を悩ましています。

朝は早めに登校し、教室を一まわり、今では係の仕事も子ども達がすすんでしてくれま

れかえられています。

ざわざわした教室が午後になると、いつのまにかシーンとなり、一人教室に残って、今日一日の反省をし、明日への勉強にとりくむのです。こんな毎日ですが、自分自身教師になったことをよかったとしみじみ思い、自分の責任の重大さを再認識させられます。

無限の力をもった子ども達に、若さを思いきりぶつけて、子ども達と共に、私も成長したいと考え、これからの教員生活を精一杯努力していきたいと思えます。

(短国四十七年卒)

「ただ今家事見習中」

出口明子

「どうかしら、おいしいかしら」「そうですね、たいへん上品な味だね」

まあ、上品な味ですって。そんなに良くできたのかしらと内心半信半疑喜んでいて、案の定「上品な味」という言葉には、文字通りの意味とは別に「たいへん薄い味」と言う意味のあることを後で知り、だまされてしまっ

たと悔しがっては見たものの、何だかんだと煽てられてはその気になって私。

久しぶりに友人、知人の方へ会って、「今何をしているの」と聞かれるたびに、「家事手伝いをしているの」と答えると、みなさん一様に、「本当なの」とたいへん驚き、不思議な顔をされます。学生の頃、口ぐせの様に「もし結婚しても家事なんて絶対にする気はないから、何もできなくてもいいっていう人見つかなきゃ結婚なんて無理ね」などと、気炎をあげていた私がどうい風吹きまわしか、家事見習中だなんて自分でも不思議でしかたないので。だからまわりの人がびっくりするのも当然のことなのです。

でも、そうすんなりと家庭に収まっているわけはなく、三日に一度はイヤになって手を抜いてみたり、お手伝いさんにおしつけて遊びに行ってみたり、そのうちこのままでいいのかしら、こんなはずではなかったと思ひ悩んだり、まだまだ前途多難なようです。

(短国四十八年三月卒)

コイヨースポットライト

毎回同窓生一人に登場していただき、生活・仕事・趣味などを通しての経験談を書いていただくページです。

このページに登場していただく同窓生を短大香葉会「香葉」編集部宛、推薦してください。

インドの農村で

長谷川 絢子

羽田から飛行機で西へ十一時間半飛んだそこは、私共が真夜中に着いたせいもありますが、まるで二千年も昔の世界のように感じました。カルカッタの街には人が多く、道ばたにも、家の前にも、横町にも人々が立ったり、座ったり、うごめいていました。この街は男の人が多く、その中を牛がわがもの顔に悠然と歩いています。建物のまわりに、数知れない路上生活者が住みついて、河口からひいた簡易水道の褐色の水で、洗面したり、炊事したりしていました。病気になるのが不思議な様です。

主人が医療宣教師として働いたネクリシニイ病院は、ここからさらに車で四時間、西に入った農村にあります。病院は現在五〇ベツ



ネクリシニイ病院前でスタッフ全員と

トで、医師三人、看護婦六人、事務長、薬剤師、検査技師それぞれの仕事をもった二三名ほどの職員が働いております。この他に、四つの診療所があり、その一つが救急センターになっております。乾期には毎月一回、医療チームが派遣され、附近住民の医療活動に当たっております。その多くは辺地で、道を作りながら入って行きますが、雨期には河の氾濫で、交通さえ止絶えてしまいます。

インドでは、問診が全く役立たない、とよく主人が言っていました。病院に来るほとんどの患者さんは、栄養失調、アメーバー赤痢

寄生虫にかかっており、その上さらに、何か病気が重なってはじめて連れてこられる有様です。この為、患者さんに尋ねても頭から足の先まで具合が悪いという答えしか返ってこないそうです。

この附近の気候は、十一月・十二月は丁度、日本の冬のはじまりの様に夜など寒いのですが、二月頃から暑



ベルダ村の市場

市場も、女性より遙かに多い男性が買物にいそしんでいました。市場といってもこのバザールでは、地面に

くなりだし、三・四・五月の暑さは猛烈です。朝九時頃になると、家の戸も窓も、熱風が吹きこまないように、却って閉めてまわっていました。

最初、子供達は全身、汗疹だらけになってしまいましたし、身体がだるく、なれる迄大変でした。暑い夏が終ると雨期がやってきます。九・十月はひどい雨が降るたびに洪水の心配がありました。

街へ行くには、バスの他に力車（人力車）自転車などがありますが、一番確かなのは自分の足だと、つくづく感じて暮しています。

た。病院の前から

バスで二十分程行くくと、ベルダ村に

着きます。ここには、ローカル線の

駅と郵便局と市場があります。イン

ドでは買物は男性の仕事のようで、

カルカッタの街のようにベルダ村の

市場も、女性より遙かに多い男性が

買物にいそしんでいました。市場と

いってもこのバザールでは、地面に

じかに野菜や魚が、そのままの姿でならべられていました。山羊の肉は、その場で屠殺して売るので慣れるまで閉口しました。ヒンズー教では、牛肉を食べませんし、回教では、豚肉を食べることはありません。肉は、骨つき皮つき筋つきの丸ごとで売られており、子供の好きなハンバーグを作るのは一苦勞です。度々買物に行かれませんが、一度にまとめて買うことが多く、その日は肉や魚の整理でつぶれてしまいます。

家は牛糞で固められた土で作られ、主婦は家の中で減多に外に顔を出しません。農村の人々のサリーは質素で、汗と泥でまみれ異様な臭いさえます。貧しく、一枚のサリーで毎日を過すことが多いようです。

カレーが常食なのは言う迄ありませんが、その作り方は、家々によって多少異なりますが石の白に、玉葱、しょうが、にんにく、とうがらしをいれてすりつぶし、それに種々な香料、ホルードと呼ばれる黄色い粉をいれ、まず辛子油でいためて匂いを出し、ついで野菜、骨つきの肉などをいれて煮込んで作ります。本場のカレー味は、おいしくて忘れることができます。

（短家三十三年卒 旧広吉）



壁 展

このページは今まで先生方に近況などを書いていただきました。しかし今回は趣をかえ、編集委員が先生のお宅を訪問したり、あるいは対談したりしたものを納めました。

『せみしぐれ』

八月二十四



日、私達編集委員三名は、大城先生のご家庭での横顔を拝見したくワクワク・ド

キドキしながら、道々何から話を始めたらよいか考えあぐねている間に石垣のあるお宅に到着。

素敵な奥様と和服姿の先生が出迎えて下さり、庭の見える部屋に案内されました。どんぐりの木には単箱が一つ、毎年四十雀が巣を懸ける。先生はとても楽しみにしていらつしやるそうです。「庭をのんびり歩く鳥でもいてくれたらいいのになあ……。」と先生。『夏休みはいかがお過ですか』『午前中勉強し午後庭いじりや高校野球のおもしろい試合があれば見るよ』先生のご趣味は「色々あるけれど、特におしゃべりが好きだなあ。研究室の先生方遊びにくる卒業生を相手に、コーヒーを飲みながら話すんですよ」コーヒーはお好きで、自分で豆をひいて入れるのもよし、喫茶店で

飲むのもよし、インスタントコーヒーを飲むのもよし、もつとまずいコーヒーでもよいとのことですよ。ご旅行は、お好きですか「好きだよ。同じ所に長くゆっくりしているのが性に合うなあ。ヨーロッパへ行った時も、静かな所でじっとしていたよ」旅のつれづれ、心で味わう旅の醍醐味を話して下さいました。

それから先生は、未来について話され「人間の平均寿命は、七十歳だとすると、少なくともあなたは、まだ五十年は生きられる。その間、世の中には色々なことがあるぞ」。まず大地震、核戦争、革命……皆、アップ・アップしている姿が目に見えるようだなあハハハ……僕はその頃は多分いない。だけど雲の上からみんなのものがいている様を見ることが出来たら、さぞおもしろいだろうね。ハハハ……」と両手で双眼鏡を作つて、きよろ

いつも和泉式部日記の講義で学生の頭を悩ます先生のお姿はどこへやら……。私達は、なんだか不思議なお話に酔つてしまい、せっかくの文明の利器であるテープレコーダーを持っていったのに作戦大失敗。なんと一つも入らずじまいだったので。

(清水・田中・成川記)

「おつかれさま」

雨がしとしと降る十月十三日に林先生のお宅を訪問し、栄養学や食品学の本がぎっしりつまった書齋でお話を伺いました。

「先生は長く学長をなさって、これからという時になぜやめられたのですか」

「関東学院女子短大の前身の女子専門学校を、昭和二十一年からずつと来て、昭和四十三年に大学の大紛争があり、その結果相川先生が学長を退任されたわけです。そういう紛争の時に誰かが犠牲にならなくてはいかんということですね。それで学長公選制がひかれその折にみなさんの強い要請があり、相川先生からも強い要請があったので学長を引受けただけですよ。そうして結局三期六年やっている間に、自分自身が私立学校の使命というものを強く感じたわけです。私は私学では創設者が一番私学の意義というか、私学の公益



目的というか、そういうことをもとに理想的な教育ができると思っていたんです。そして関東学院の場合、キリスト教主義の学校だから、建学者の意志に近い人ということになると、バプテスト教団に所属しているクリスチャン。牧師ならなおさら良いわけですよ。そういう人によつてもらうのが本来の姿、それが一番良いという気持を前から非常に僕は持つていて、何回も何回も言っていたんです。それで相川先生が二十二年間、ノンクリスチャンの僕が六年間やつて、このままいけばあと十年や十五年やつちやうことになる。情性でね。それじゃ困る。まあ、やめる時に理由は言つたんですがね。自分も勉強がしたいとか……ね。ところで同窓会もすいぶん良くなり、やりやすくなつたでしょう」

長就任してからは、よくいろいろな所に顔を出したんですよ。何かというとね。僕が出ればかならず関東学院女子短大という名が出ますからね。そして、短大の主体性という意味でも、キャンパスがなければと思い、ハンソン山に短大を移すことを考えたんです。事務長も大変だつたんですよ。いろいろお金のことなどね。短大は大学と違って、建物一つにも問題があつてね。それで各方面の説得なんかでね。まあ、だけど今じゃ世間も関東学院の女子短大ということで無視はできないよ。

僕が六年の間にもう一つ、職業教育をやりたいということ、大激論をやつたんですよ。キリスト教主義学校だからといって職業教育技術教育をやつても何も矛盾はないじゃないかということね。幼児教育科を作つたのもそういうことね。まあ、私は学長として土地とか建物、制度など外側の面に入れ、それを使命と思つてやつてきましたので、後任の下田学長には、せひその中に魂を入れてほしいと思つています」

この後、リトリートなどのとても楽しく、おもしろい話ができましたが、紙面の都合上、後日機会がありましたら、載せたいと思います。

(赤井・江口記)

“小玉先生ご夫妻

を囲んで”

大変仲の良い小玉先生ご夫妻に、お二人の日常生活を伺いました。早速お二人のなれそめから聞かせていただきました。昭和三十一年、関東学院にミセスが勤務された時が初対面で、ミスターは、頭の良い女性が好きなので数多い女性（約三百人）の一人に加えておかれたそうです。ミセスにミスターの第一印象を伺いましたら、オールバックにして、にやけてキザな人だと思われたそうです。当時独身者はお二人で選択の余地がなかったとか。いつもミセスの寂しそうな後姿を見て同情結婚をしてあげたそうです。（ミセス注！これは一方的な見解）昭和三十四年にご結婚。ミスターは、計画をたてず、気の向くままに旅行するのが好きで、新婚旅行さえも計画なしで、伊豆山を始め、各方面を回り、一週間の旅行を楽しまれたそうです。最後の晩

は大阪で宿が取れず夜中に駅前の警察署に飛び込み、その紹介で、いかがわしい旅館に泊まる羽目となり、最初から失点をかせいだと言われました。

また、数年前にミスターが白糸の滝を見たいとミセスを誘ったら断られたので、フテ寝をしたものの、あきらめきれず時間のことも考えずお二人車で出かけられたそうです。そ



して着いた時は真暗だったので懐中電燈を照らし、犬がいたため（ミスターは大の犬嫌い）愛用の木刀を持ち、やっと滝を捜しあてたのに何も見えなかったそうです。

しかし、見えなかった所が実に素晴らしかったとか。でもさすがに後悔して、やはり旅は計画的でなければいけないとおっしゃっていました。

英語の先生になられた動機をミセスにお聞きしました。言葉や英語学に興味を持っていたからと言われ、ミスターが横から、「妻に仕事を持たせている夫の内助の功、つまり夫の協力があり、初めて妻は安心して仕事ができるのです」と、女性の地位を向上させるのは男性の協力が必要で、あたかも実際に家事を手伝っているかのように強調されました。

休日、ミセスは庭いじりが趣味で、ご自分で植木や花の手入れをするのが楽しみで、ミスターは食べることでドライブがお好きです。

（第一の趣味は学問だそうです……）

最後に卒業生にミセスから一言。「香葉会には出席者が少なく、皆様がいらしてくだされば出席する甲斐もあるので、是非一人でも多く遊びにいらしてください。」

（田中・田辺記）

集いの窓



卒業二十二年目ですか…

古城 房子

十六年ぶりのクラス会

佐藤 恭子

クラス会によせて

相 吉 典 子

二、三年ご無沙汰だった短大一期のクラス会。兵藤先生、上市事務長を囲んで、会の後、金沢園で夕食を共にしました。飲んで？食べて喋って、昔の話。今の話に大笑い、家の事もすっかり忘れて、解散したのは九時でした。今や、おつむに白いものが交じるお二人の先生も、当時は三十そこそこ。海千山千の学生にかわいがられ？足がガクガクふるえたというウソのような話も沢山でて、にぎやかな楽しい会でした。そろそろ二世を母校へ…という年令になりましたが、先生からこの中で一番若々しくてみずみずしいと保障された二人のミスの、「これからお嫁にいいわ」という意志表示もあり、気分も見かけもみんな若い、と改めて自負しました。(うぬぼれにも年期)、日曜日の夕方出席者は七名でしたが、返信から旧友の消息を披露しあいまし

た。

(短英二十七年卒 旧時田)

五月十二日、母の日にふさわしい五月晴。卒業以来十六年ぶりに、横浜寿宴でクラス会を開きました。この度、榎渡さんがたった一人で名簿を新しく作ってくださいました。それを機会に、多くの方々からのご要望があり、クラス会の運びとなりました。
鳥越、上市両先生をお迎えして、昭和三十三年三月、家政科七回卒業生三十名の中、十五名の出席という盛大なクラス会でした。
上は中学二年、下は一才未満のお子様の中から、また、職場の事と話は尽きません。ご主人の医療活動について、インドまで行って来られたお話もあり、二次会をもって名残惜しく、また、来年の五月第二日曜日、再会を約束して解散しました。

(短家三十三年卒 旧本田)

私共、家庭科十回卒業の同窓生は、十三年ぶりに母校の短大室の木校舎三号館で、クラス会を開きました。当日は、林学長、上市事務長、鳥越教授の各先生方もご出席くださり、出席者十八名が、本当に久しぶりに楽しい時間を過しました。なつかしの母校も、すっかり立派になり、この校舎もはじめてで、おどろきと感激もひとしおというところでした。
おたがい、会いたい気持は山々ながら、家事や育児に追われ、ついついご無沙汰がちなま、あつという間に十年以上たつてしまいましたが、顔をあわせてみればやはりそれ程かわつてもいず、なつかしい姿や声に、これからは、どんどん、こうした会合を持ちましょうというところで、名残惜しい時を終りました。

(短家三十六年卒 旧後藤)

覚え書 (五)

— 女専・短大小史 —

上市 二郎

去る六月三十日の香葉会総会において、三の卒業生から、「この『覚え書』は学生時代を思い出して楽しく読ませてもらっているので、なるべく詳細に書いて長く続けてほしい」との希望が出されたが、昭和二十七年、この頃の私の業務は昼・夜の教務や予算関係を含むその他の仕事で忙しく、学外関係の行事、旅行等に参加しないものが多く、全部記述できないのが残念だが、できるだけ資料を集めて記してみたいと思っている。

さて、前号においては、伊豆一碧湖への全校生の遠足について記したが、これは昭和二十七年五月三十一日のことだった。この年は色々な行事が行われているが、思い出となることも多い年であったと思う。

五月中旬に学友会の新・旧役員が交代して

六月三日(火)には第一回拡大委員会が開かれている。当日の議題としては、英文科第二部の交歓会について、であったが、この拡大委員会とは学友会役員並びに文・体連役員、クラス委員及び学生主事を中心に役職にある教職員等の構成で、年四、五回は開かれていた。何しろ短大生活は二ヶ年間で、学友会並びに文・体連役員など二年交代となるので、たとえ学生の自治で学友会が運営されるとしても過去の歴史の連り、伝統等について解らないことが多く、その時代、時代の流れの中でのことを判断することになるので教職員がアドバイザーとして、判断の資料を提供し、その他相談に応ずるためこのような会が開かれていた。現在はリーダース・トレーニングの型をもって毎年一回学年末に、葉山近辺で学友会新・旧役員と学生主事並びに学生課職員も参加し、一泊してゆっくり時間をかけて話し合うための場を持っている。これが時代の流れに乗って姿は変わっても主旨の変らぬ拡大委員会ともいえよう。

英文科第二部が認可されて二年目を迎え、一年次の時は時間割に組み入れられていた体育の授業も、二年次になると平常の授業時間外に体育を実施しなければならなくなり、三

分の一単位を補充するため学外にその時間を設けることとなった。単位獲得ハイクと名付けて第一回が計画され、六月八日(日)に裏高尾方面へハイキングすることになった。しかしこの時は計画通りに行かず途中から降り出した雨のため難行し、一部コースを変更して強行したが無事に終了し所期の目的は達せられた。これは昼間職場に従事して夜間勉学を続ける学生の交りの場としても、健康的で明るい会合として後日三ッ峠ハイクなどを含め数回実施されている。

どこかで記録しておきたいと思っていたのが、毎年行われていたスピーチコンテストで



バレーボール校内大会

ある。この年は六月九日(月)第一・二時限授業終了後、審査員に宣教師及び英語の先生が当って開かれている。各クラスより選ばれた代表者によって競うのであるが、上位三位までの入賞が決定し発表される。入賞者の上位にある者は、後日、本年度の四短大交歓会(フェリス、青山、恵泉)この交歓会については既に香葉三号に於て説明済みの文化面に参加し、他短大の方々と大いに意見を述べ合う機会をもつことができた。この日の午後にはバレーボール校内大会が開かれて、これも各クラス対抗試合だ。出場する選手も張り切っていたが応援が仲々大変だった。(当時の)学生にとつては残念ながらこの時は先生方のチームが優勝しており、交りの場を多く持つという目的は成功している。会員の方も色々この辺に思い出が多いことと思う。

それから三日目、十二日(木)の朝、学生が心をこめて持ち寄った美しい花々、それに加えて美味しそうな果実が段上一ぱいに飾られた講堂で、「花の日」の礼拝が開かれている。その日も第一・二時限授業終了した十時半より礼拝が行われているが、この日の奨励者は宣教師ミス・ハジスだった。学生達は放課後、これら神に捧げられた花や果実を手に慰間に

出かけている。第一グループとしては主に当時のレクリエーションクラブが中心になって保土ヶ谷の結核療養所へ約三・四十名、常に病床にあつて希望のない毎日を過ごしている人々に光を与え、病と斗っている人たちの枕辺へ美しい花を飾り慰問する。第二グループとしては有志による三・四十名が、雲雀ヶ丘学園という養護施設を訪問、恵まれない子供達とひとときを楽しく一緒に過ごしてくる。このような行事や、奉仕が、たとえ宗教部が中心になつていたとはいへ、無理なく行われ



「花の日」礼拝

ていたのがなつかしく、現在とんとお目にかかれないのは残念だ。時が流れ去つたことをつくづく感じさせられる。

ところで英文科第二部が昨年より発足したことについては前述したが、拡大委員会の議題にもとりあげられたように、昼間部も夜間部も同じ短期大学で学ぶ学生であり、年に一度位親しく交る機会があつてもいいではないか、という考えが熟し、昼の学生会と夜の自治会とが互いに数回の連絡会をもつて準備を進め、遂に六月二十六日(木)午後五時半より第一回昼夜学生交歓会が開かれることとなった。教職員を交えてのこの会は両会長よりの挨拶から始めて懇親会には、ささやかながらお茶とお菓子が配られ、スピーチに、ゲームに、語らいの場に、やがてフォークダンスにと、時間がたつのを忘れてのなごやかなひとときを持つことができ、当時学生だった会員にとつてはよき思い出の一つとなつていことと思う。

七月五日午後六時からは演劇部主催の学内公演「演劇の夕べ」と題して「おふくろ」と「英語の劇」が上演されている。そしてよい夏長い休暇を迎えることとなる。

(つづく)

四十九年度

総会報告

毎年六月の最後の日曜には、卒業生による香葉会の総会をかねた集りが開かれている。本年度も去る六月三十日（日）の午後、短大室ノ木新校舎一階の学生ホールで開催された。総会などというと、何か他人のお祭りごとみたいなに響くかもしれませんが、私達卒業生自身の年一度の学校への里帰りと考えていただいたらよいのでは。「ソーカイ」なんていわずに、とにかく楽しいんですから。

当日午後一時三十分、副会長の西村恵子さん（短大三十年卒）の名司会による礼拝に始まった。讃美歌を歌いながらかつての学院生活をおもい起こしているような顔。顔。顔。

つづいて番頭さん（幹事長のこと）による会の事務報告。前年度の活動経過、予算決算等に関する事項。これはつまらなかつたが短かったのがよかつた。皆さんポカンとしていた様子。しかし、会費の使い道などどうしても報告せずにはおくれものかと、はりきつてい

たのは番頭さん一人でした。始まりからここまで二十分。

次には会長の古城房子さん（短大二十七年卒）の「あー、皆さま、本日は……。どうもありがとうございました。」（三分）という至極丁寧なあいさつ。一同「さすがあ」というような顔つきで聞き入っておりました。

これ以後は全く自由なくつろぎの時間で、卒業生相互の、あるいは、卒業生と先生方との談話に花が咲きました。ベチャクチャ〜。次の先生方が出席してくださいました。

中井先生夫妻、時田先生、兵藤先生、門根先生（以上旧専任）。林学長、下田先生、柴先生、安藤先生、井口先生、鳥越先生、小玉先生、岡松先生、スウィーズー先生、上市事務長。

出席した卒業生約九十名。さらにさらに楽しい会にしていくための提案などありましたら事務局までお寄せください。

最後になってしまいました。この会のための準備その他にご助力くださった学内外の方々に深く感謝いたします。また来年もよろしくね、なんて言ったりしちゃいますけど。（以上、幹事長御園氏（短大二・四十年卒）による体験的総会報告でした。）

安藤先生、井口先生と共に集う会

来年の総会は6月の最終日曜日に例年のように開きますが、20数余年、短大の専任教授として活躍くださった、安藤現幼児教育科長と井口現食物栄養専攻主任のお二人を中心に特別のプログラムを予定しております。お問い合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

と き 昭和50年6月29日 1時から
ところ バンドホテル（マリンタワーの近く）

香 葉 会

昭和 48 年度決算及び昭和 49 年度予算
 (自昭48. 4. 1～至昭49. 3. 31) (自昭49. 4. 1～至昭50. 3. 31)

	摘 要	48年度予算	48年度決算	差 引	49年度予算
収入の部	会 費	1,363,200 (@ 3200×425人)	1,363,200	0	1,286,400 (@ 3200×402人)
	合同よりの援助金	426,000 (@1,000×426人)	426,000	0	402,000 (@ 1000×402人)
	前年度よりの繰越金	310,983	310,983		580,674
	収 入 合 計	2,100,183	2,100,183	0	2,269,074
支出の部	事 業 費	620,000	485,398	134,602	650,000
	総 会 費	150,000	161,880	△11,880	170,000
	会 合 費	80,000	10,500	69,500	70,000
	通 信 費	60,000	31,821	28,179	60,000
	交 通 費	50,000	4,940	45,060	40,000
	事 務 印 刷 費	80,000	3,370	76,630	60,000
	給 与 費	240,000	76,000	164,000	340,000
	新 入 会 員 欲 迎 費	47,000	46,800	200	80,000
	そ の 他 雑 費	69,383	0	69,383	66,474
	予 備 費	50,000	45,000	5,000	110,000
	合 同 分 担 金	553,800 (@ 1300×426人)	553,800	0	522,600 (@ 1300×402人)
基本金勘定へ繰出 次年度への繰越	100,000	100,000		100,000	
支 出 合 計	2,100,183	2,100,183	0	2,269,074	



おたより

このページは香葉会總會に欠席された方々の集
青集です。全員でないのが残念ですが、同窓生の
近況が少しでもわかればと思い、企画しました。

進藤 淳子

主人の父母、男の子三人の七人家族。自分
のみなりなどほったらかし、髪をふりみだし
て悪戦苦闘の毎日を送っています。そのうち
のんびり暮らす日もあるかしらと、その日を
待ち望みつつ一日一日を送っています。

(短英二・三十四年卒 旧堤)

東頭 寿子

四十九年八月で結婚五周年になりますが、
現在四才と二才の男の子が与えられ、十二月
にはもう一人増える予定。北海道の片すみの
小さなキリスト教会の牧師の妻として公私と
もに多忙です。特に夏の伝道シーズンには。
ルツ寮がなつかしいです。皆様によろしく…。

(短英三十七年卒 旧関沢)

安間 道

夫の転勤により田舎住まいも十七年目。赤
ん坊だった長男は高校二年生、次男は中学二
年生です。すっかり田舎っぺになって暮して
おります。

(女専英二十六年卒 旧有馬)

毛利ちとむ

アルバイトのつもりではじめた英語塾がけ
っこう繁昌して、現在ではとうとう本業にな
ってしまった。毎日中学生を相手にABC..
こんなことなら学生時代もっとペンキョウし
ておけばよかったと思いつつ、十二年もこの
仕事をしている次第。一昨年家を新築、長女
次女、長男と子宝にも恵まれ、忙しい日々を
送っている今日この頃。たまには横浜の方
を向いて最敬礼している時もある。遠い九州
のはてから学院の発展をいのりつつ…。

(短英三十二年卒 旧伊藤)

織田 明美

結婚して満六年過ぎまして、長男は幼稚園
に長女は満二才九ヶ月。家政科でお教えを受
けたことが日々の暮らしに生きる毎日です。

(短家三十七年卒 旧重田)

角田 光枝

卒業してもうまる四年になりますが、会社
でも同期の方はほとんどやめてしまい中堅社
員となつてしまいました。会社には毎年、関
東学院から何名か入社されますが、みなさん
とてもいい方達ばかりですネ。大学祭には時
々行きますが、短大にはその後幼児教育科が
できたそうですね。幼稚園の先生になりましたか
つね私にはちよつぱり残念でした。

(短家四十四年卒)

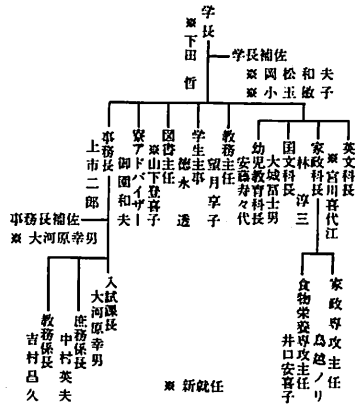
板谷 好美

今年の三月に結婚し、住居も今まで住み慣
れた横浜を離れ、新潟の片田舎でのんびりと
暮しております。兵藤先生の講義がとてもし
つかしく思い出されます。私にとつて読書は
癖の一つになつてしまいました。そのうちゆ
っくりと、講義でうかがった「罪と罰」を読み
返したいと思っております。

(短国四十三年卒 旧森本)

母校ニユース

学長交替にともなう役職者の構成は左の通りです。



☆リトリート

恒例のリトリートが、十月三日〜九日の間に、伊豆の天城山荘で行なわれた。前半、幼児教育・家政科学生約二百三十名、後半に、国文・英文科約二百名が参加した。

主題「生きるとは何か」―副題「われらにおのが日を教えることを教えて、知恵の心を得させてください」(詩篇)。テキスト、島崎敏樹著、「生きるとは何か」(岩波新書)。

主題講演の講師に、渡辺邦博(鶴沼教会)、天野功(捜真教会)の両牧師先生をお招きくださったのは幸いであつた。

前半は続く好天ノソフトボールをやり、イノシシの曲芸を見、天城路の秋涼を満喫することができた。青春とは何か、結婚と生きがいは何か、夜更けの山荘のロビーに、個室に語らいの声が続いていた。丸山先生(幼児)が、特に映画「風に鳴る声」を用意されたのだが、みんなの感涙を誘つたようである。林(前学長)先生と井口先生が、病気で不参加。

幼児教育科で音楽ご担当の村上先生、なお後半に大木先生が特別に参加された。

後半は国文・英文科。学生発表、分団討議それぞれ熱意にあふれ、充実していたといえるが、二日目の雨はうらめしい限り。川柳大会で、下田新学長がトップ入賞「生きがいに、充ちあふれたる、スウィージーさん」。このスウィージー先生の夕拝や英語による讃美歌指導が、後半の異色番組であつたといえる。本学の歴史が年輪を一つ加えた。(めでたし)

(学生主事 徳永透)

☆およろこび

出席―教務科の奥村悦子さん男のお子さんを

ご出産 潤君です。庶務課の中村英夫さんに長男宏之君が誕生しました。おめでとうございました。

☆退職者・新任者

退職―英文科高橋美奈子さん(短英47年卒)、家政科大場章江さん(短家46年卒)、国文科荻東公子さん(短家45年卒)、庶務課鈴木弓子さん(短家44年卒)、教務課冨田道子さんが、それぞれの道に進まれることになりました。長い間ありがとうございました。

新任―英文科石毛直美さん(短英47年卒)、家政科近藤瑞枝さん(短家49年卒)、国文科成川勝子さん(短家49年卒)、庶務課間中幸子さん(短家48年卒)、学生課奥村博之さん、教務課藤井美紀子さん(短国49年卒)、入試課池田信夫さん。以上の方々が母校の発展のために貢献なさって下さっています。

☆クラブ紹介

今回は、少人数ながらも活躍している、同・愛好会よりご紹介したいと思います。

▽映画研究同好会

私達映画研究同好会では、現在13名の会員

たちにより、文化強調週間や短大祭などにおいての映画上映をはじめとして、8ミリによる自主映画製作を行なっております。今年は新入会員を多数迎え、より充実した活動をめざして励んでおります。卒業生の皆様方も短大祭などの折には是非いらして下さい。

▽フォークソング同好会

我同好会では、音楽を通じて互いの交友を深め、歌の上手、下手ということとは抜きに、同じ趣味を持った者同志が理屈抜きに純粹な心の付き合いをしていこうと考え活動を行なっております。

▽放送同好会

私達放送同好会では、様々な方向から、会員が各自、興味を持った放送世界の部分について、研究をしております。そして、部員の横のつながりを大切に、現代の放送世界を研究していく輪のクラブです。

▽観光事業研究同好会

私達の今年度の調査場所をご紹介いたします。そこは、国鉄で一番高いところを走る小海線内にある学生村としての南相木である。

はたして、観光地の中に学生村が含まれるのであろうか。本当の観光地とは、一体どの様な所を示すのであろうか。それが、また今私達の問題として、あることでもあるのです。

▽混声合唱愛好会

私達混声合唱愛好会は、宗教曲を中心に練習と演奏活動を行ない、宗教曲に対する理解を深めようと常に努めております。又、私達は、混声合唱にしかないすばらしさを味わいながら、歌うことの喜びを共に分かち合い、互いに励まし合って、活発に活動を続けております。

▽スキー同好会

皆さん、スキーをしたことありますか。あの白銀のゲレンデに立った時、「来て良かった」と、きつと思うでしょう。そして、そんなゲレンデに自分のシニールを描きたいとは思いませんか。我々同好会は少人数ではありますが、楽しい同好会です。興味をお持ちの方、一緒にいたしませんか。

その他のクラブ・同好会・愛好会には次のようなものがあります。書道・美術・ハイキ

ング・箏曲・ワンダーフォーゲル・ユースホステル・写真・茶道・心理学研究会・舞踏研究・創作ダンス(以上文連所屬)

自動車・軟式庭球・バドミントン・弓道・卓球・バスケット・フィギュアスケート・硬式庭球・バレーボール(以上体連所屬)

☆第23回シェイクスピア英語劇上演される

恒例の大学・短大合同のシェイクスピア英語劇は、今回特に神奈川県教育委員会の後援を得て、11月3日県立青少年ホールにおいて「真夏の夜の夢」が上演されました。

すばらしい装置・照明にもまして、学生とは思えない演技力で観客をわかせました。

☆聖書研究の集い

月曜の昼休みに、柴三九男先生を中心として、佐藤三郎先生、徳永透先生などが参加されています。ミセス・スウィーゼーは、本学学生を対象として、週に二回英語のバイブルクラスを開いて下さっています。水曜は、宮川喜代江先生、木曜は御園和夫先生が通訳をかねて補助をされております。なお、毎週水曜昼休みに、は礼拝が守られています。

香葉会事務局担当者紹介



前任者の石垣さんの後を受け、今年一月より新たに森下友恵（短英三十五年卒、旧・椎谷）さんが事務局の仕事を担当して下さっています。毎週月・火・金の三日、午前八時半より午後四時半まで短大の庶務課におられます。正確で丁寧な仕事ぶりはなかなかの好評です。二人のお子さんのお母さんで、何かとお忙しいところをお願いしているわけです。香葉会についてのお問合わせは森下さんへどうぞ。

校旗・団旗紹介

関東学院として大正八年に三春台の丘の上に誕生して早くも五十五年目、今その歳月の流れの中を歩んでいます。その前身を辿るとき、明治十七年十月、横浜山手の地に誕生しました横浜バプテスト神学校からの歴史を考えねばなりません。今年の秋は丁度九十周年に当り、開学九十周年の記念行事が計画されるなど取り沙汰されていきましたので、この機を記念して本学も写真のような校旗を制定いたしました。ここに会員の皆様にもご披露いたします。地色はダーク・グリーン、その上に金糸をもって校章を浮き出させてあります。



女子専門学校設立（昭和二十一年）に際し校章の制定は教職員の努力によって多くの種類のものが画かれ、その校章の原画の中から選ばれたものが採用されまして、今もなおその原型を変えないで、女子短期大学に受け継がれております。建学の精神を表徴しましたオリブの三枚の葉はキリスト教にもとづくものでありまして、智育・徳育・体育の三位一体を意味し、中心から出てくる若芽が学院ではぐくまれた皆様であることは既にご承知の通りであります。この機会に母校の精神、歴史などを考えるひとときを持ってみてはどうでしょうか。

（J・K生）

編 集 後 記

「香葉」五号がやっと出来上がりしました。お忙しいにもかかわらず、ご寄稿下さった同窓生の方々、また編集を助けて下さった上田先生、御園先生、大河原先生、古城会長ありがとうございました。

二年間編集委員をやり、「香葉」を作る事がいかに大変か、よくわかりました。正直のところ、短大の職員になるまでは「香葉」が送られて来てもあまり読んでいませんでした。

しかし、編集する立場になって「香葉」を一人でも多くの同窓生に読んでいただきたいと思うようになりました。

この五号もまだまだ未熟な所が多く、はずかしいばかりですが、ぜひ隅から隅まで読んで見て下さい。そして、ご意見、ご感想をきかせて下さい。そうすればきっと次号に役立つ、徐々により良いものになると思います。

江口和子(短家四十三年卒)

初めて編集の仕事をして先生方に日常生活のインタビュアをすることになり、普段お話をする機会のない先生でしたが、とても気さ

くにいろいろお話を聞かせていただき大変貴重な経験をしました。

一冊の本を作るまでには想像していた以上に大変なことであると思うと同時にとてもやりがいのある楽しい仕事でもあると思います。田中悦子(短英四十六年卒)

卒業し新たな生活に入ると学校を思い起こすことなどはなくなってしまうものではないかと思えます。そんな時、年に何度か送られる「学報」また、「香葉」が学生時代の思い出を誘うものになるのではないのでしょうか。

その香葉も第五回の発行を数え、ここで何か新しいものをと委員一同苦心惨憺、普段知る事の出来ない先生の一面をのぞかせていただいたり……。新しい学校を知り、良き思い出を振り返るものになったら、幸いと思います。赤井紀子(短国四十七年卒)

これまで編集のお手伝いをさせていたいただいたので、その誌が出来上がった時は、とてもうれしいものです。そして皆様が楽しく読んで下されば、幸いに思います。特に今回の会誌には、今までのものをステップとして、新企画も取り入れてありますが、いかがでしょう

うか……？

又、編集委員を経験してみても、改めて言葉に對しての使い方や表現力のむずかしさなどを切実に感じました。清水明代(短国四十八年卒)

「香葉」五号は新学長を迎えて、さわやかな挨拶の言葉に始まり、又今回の新企画として三人の先生方のインタビュアを盛り込みました。

我々編集委員は、これからも新しい企画を取り入れたいと考えています。田辺正子(短英四十八年卒)

訪問記とは、何とむずかしいことよ……。大城先生訪問班は、気持よく「yes」のご返事を頂いたのですが、はじめてするインタビュア。(とはいっても、当日編集委員三名あがりっぱなしで、ほとんど何も言うことがなかったのです)先生が、それを察して下さりお話をしてくださったのです。頼りにしていたテープレコーダーには裏切られ、皆さんのように、さまざまな困難を経て雑誌「香葉」は出来たのです。

成川勝子(短国四十九年卒)

関東学院女子短期大学

英 文 科 | 家 政 科
語学コース | 家政専攻
文学コース | 食物栄養専攻
国 文 科 | 幼 児 教 育 科

推薦入学	面接日		1月18日(土)
一般入学	試験日	第1期	2月7日(金)
		第2期	3月7日(金)

取得資格—中学校教諭課程（英語・国語・家庭・保健）幼稚園教諭課程・司書教諭課程・栄養士課程・司書課程・保母課程

☎236 横浜市金沢区六浦町室の木77 ☎045 (701) 3189

案内書・送料共320円 請求および問合わせ先・本学入試課

香 葉 第 5 号

昭和49年12月10日 印刷・発行

関東学院同窓会・香葉会

代表者 古城 切子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236

関東学院女子短期大学内

電話（横浜045）781-2001（代表）

781-0148（直通）

関東学院同窓会・香葉会誌